

平成28年度

# 入学試験問題

(40分)

## 国語

(アカデミーコース)  
(特進文理国際コース)

学校法人 成美学園  
福知山成美高等学校

受験上の注意

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 試験中に問題冊子および解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手を上げて監督者に知らせなさい。
- 問題の答えは、ていねいな字で書きなさい。

① 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（字数については、句読点、「」なども一字に数えるものとする。）

個性が強い人はつきあいにくい。そう感じたことがある人は少なくないでしょう。（①）、おそらくその実感は、けつして的外れなものではないと思います。そのことは西洋思想の変遷をたどってみるとよくわかります。（②）、個体や個性的なものに価値を認めようと言わわれはじめたのは、わりと最近のことです。

西洋の哲学にしても宗教にしても、もともとはフヘン性や理念に価値を置いていて、個々の人間はその反映にすぎないと考えられていました。でもその後、人間自体の価値が再認識されるようになり、さらには人間性もまた進歩を遂げることによって、フヘン的な価値に到達することができる、という考え方がなされるようになりました。が、結局、それだけではうまくいかない部分があつて出てきたのが、個性を重視しようという風潮です。

要は、「いま」を大事にしているということ。かつての哲学や宗教のように価値を人間の外に置くのではなく、人間性の可能性に期待して価値を未来に置くのでもなく、いまあるままの私たちに価値を置く。それが、個性重視の根底にある考え方のようと思われます。

（③）人間の外側に価値が置かれていたのには、それなりの理由があります。もつとも無視できないもののひとつは、「まとまりを生む」ということでしょう。自分たちの外側に価値があるからこそ、人びとは自分のなかから踏み出してそこにツドい、まとまることができるのでです。でも、それぞれの個人のなかに価値が内在すると考えられるようになったとしたら、人びとはどうやってツドい、まとまればいいのか……。念のために言つておくと、「だから個性を重視してはダメだ」という話ではありません。ただ、もう少し、個性の周辺にあるものも含めて整理して考えたほうがいいのではないかと思います。

いまの個性重視の風潮にしても、（④）、個人が独自に備えているコユウ<sup>(タ)</sup>のものを大切にすれば、それですべてがうまくいくかのように思われているふしがあります。が、個性を重視することと、それが發揮されるようにすることとは別の問題です。たとえば、特定の分野における研究に熱心に取り組んで、博士課程をオサ<sup>(エ)</sup>めるような個性的な人たちが、うまく社会で生かされているのか。より具体的にいえば、職がちゃんと見つかるのか、ということですが、かならずしもその筋道がきちんと整えられているとはいえません。やっぱり、その人独自の個性のほかに、個性をきちんと受け止める社会の仕組みが必要です。そのことをよくふまえないまま、やみくもに

個性の重視を訴えてしまうと、単なる現状の追認にとどまってしまう可能性も出でてきます。

そもそもその話でいえば、個性をどのレベルで認めるか、という問題もあります。例えばある人の個性を述べるということ、それはその人の持つ独自性を示すということです。ただ、言葉というものは一般的なことを述べるものですから、それを用いて個性を言い表すのは簡単ではありません。たとえば、「(体が)大きい」、「(力が)強い」、「(足が)速い」といった性質は、それぞれ一般的な、さまざまな人がもちうる性質です、それだけで個性的とするわけにはいきません。それぞれの性質について、それを持つた複数の人たちからなるグループの存在が考えられます。たとえば「人間」というグループならば、伝統的な定義では「ロゴス（言葉・<sup>オ</sup>リセイ）を備えている」という性質を持ちます。（⑤）、その性質自体は、その人独自のものとはいません。そこで、そうした性質の記述をどんどん増やしていくと、どうなるか。□ i □。一般的なものである言葉を使って、個別的なものを特徴づけるやり方のひとつですが、はたしてこれで私たちが考へている意味での「個性」を記述していることになるのでしょうか。

<sup>(注1)</sup> 俯瞰してみれば、すべての人たちが異なる生き方をしていますし、みんな異なる経験をもっています。風貌や行動も違っている。その人らしいという意味では、もちろんそれらは個性でしょう。ただ、西洋哲学では、出来事や事物の「ほかのどこにもない、そこにしかないという性質」を単独性といいますが、そのレベルでみてしまうと□ ii □です。つまり、いま言つたような意味で個性を考えるとすれば、あらゆる人が個性的であり、個性重視とは、あらゆる人を尊重するということにほかならないということになります。

ただ、私たちが「個性を重視する」というときに考へているのは、むしろ、「個性的である人とそうでない人がいる」ということ、そして「あるキワ立った性質を備えた人がいる」ということではないでしょうか。このとき、ある人の個性を述べるために、その人が備えている無数の性質を数え上げるには及びません。その個性をなす「キワ立った性質」は、それ 자체としては複数の人においてはあるものかもしれない。しかし、その性質がたとえば、その人が属するコミュニティーで珍しいものであるとすれば、それはその人をキワ立たせる役割を果たすことができます。そう考へれば、私たちがふだんイメージしている「個性」とは、言葉でいい表すことができる一般性と、その人のほかにないという単独性の間にあつて、なおかつ、ある程度、社会的に価値づけられているものである、ということができそうです。

ただし、いまお話ししたのは、人間が備える「性質」という観点から人間をとらえる、伝統的な考え方からみた「個性」です。哲学の世界では、近代以降、こうした人間のとらえ方は大きく変わってきています。西洋哲学には実存思想というものがあります。その源をたどつていくと、十九世紀のはじめくらいから、人間のあり方は他者との関係のなかで決まるという考え方が出でてきます。それまで人間にとつての他者といえば神でした。が、それとは区別された他者が考えられるようになつた。個は個として存在しているのではなく、あくまでだれかとの関係のなかで成立するものだということで、哲学にも大きな影響を与えました。（中略）

個性重視とはいつたまにを意味するものなのか。個性とは人間が生きてきたなかで否応なくかたちづくられるスタイルですから、「個性を伸ばす」というのはおかしな話です。ときどき、「個性的な人間になれ」と促したり、「社会に有用な個性を見つける」などという人がいますが、努力目標としたときに、それは個性といえるのか。

ただし、「個性を生かす」という話はできるかもしれません。

X

といいますが、実際に、それまで力を発揮できなかつた人が、別の条件下や関係性のなかに身を置いたとたん、急に力を発揮するということはよくあります。個性というものは、単独で機能するものではないのです。あるセッティングのなかで発揮されるものなのです。そう考えれば、「個性を重視する」とは、「能力を伸ばす」という意味ではなく、「その人を適切な環境に置く」ということだといえるでしょう。こういう話をすると、本人の努力とは無関係で他人まかせのようですが、そんなことはありません。「適切な環境」は他人から与えられるだけでなく、自分で探しにいくこともできます。ただ、そこには、自分を全面的に受け止めてくれる理想的な環境を求めて、いつまでもさまよいつづけることになるという危険性がある。これは個性重視のもうひとつワナかもしれません。

このワナを避ける、あるいはそこから抜け出すためにはどうすればいいのか。難しい問題ですが、私の狭い経験の範囲でひとついえるのは、職業的な表舞台ではエキセントリックともいえる言動で知られる人が、日常的な交流のなかではとても礼儀正しく、ていねいで、心配りもこまやかであるという例が、けつして珍しくないということです。いわば、個性的な人が個性的であることを許される場所を確保するために、人間関係の「下地」のようなものをつくりついているということ。こうしたことは本人の努力に属する事柄といえるかもしれません。ちょっと極端ない方かもしれませんのが、こうしてみると、個性とはもはや運命とも言えそうです。あるいは、「呪い」もあるかもしれません。要するに、私たちの思考や行動にそうならざるを得ないような方向づけをするものだということです。

そこからは、ほぼ逃れられないといつてもいいでしよう。

だからこそ、社会のほうにそれを受容する仕組みや文化が必要だと思うのです。科学をはじめ、さまざまな分野で個性が求められているわけですが、それが突出したものであればあるほど、周りは理解できなくなります。まずはそこに、「目利き」<sup>II</sup>なり、「通訳」なりが必要になる。そして、さらに大切なのは評価の仕組みです。個性を生かそうとして、うまくいった場合はともかく、うまくいかなかつたときにどう受け止めるか。うまくいかないことのほうが多いですから、そこはよく考える必要があるでしょう。

要は、うまくいかなかつたときに、平然と「しかたないね」といえるかどうか。本当に個性を重視したいのなら、個性を生かそうとするなかでかかるコストや、起こつてくるさまざまな軋轢<sup>(注2)～</sup>を、丸ごと引き受ける覚悟が必要です。その覚悟があるかどうかが問われているのだと思います。

(注1) 俯瞰<sup>ふかん</sup>…高いところから見おろし眺めること

(注2) 軋轢<sup>あつれき</sup>…仲が悪くなつて争いあうこと

『出典 原和之『個性はこの世界に本当に必要なものなのか』』

問1 線部(ア)～(カ)のカタカナを漢字に直しなさい。(とめ・はね・はらいに注意し、楷書で丁寧に書くこと。)

問2 (①)～(⑤)にあてはまる語として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- |        |         |       |        |       |
|--------|---------|-------|--------|-------|
| ア けつして | イ だから   | ウ そして | エ たとえば | オ つまり |
| 力 しかし  | キ ともすると | ク すると | ケ そもそも | コ かつて |

問3

X

\_\_\_\_\_に入ることわざとして最も適当なものを次の 中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 木によりて魚を求む イ 水を得た魚 ウ 逃がした魚は大きい エ 水清ければ魚すます  
オ 魚の目に水見えず

問4

——線部I「エキセントリック」II「目利き」の本文中における意味を次の 中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

I 「エキセントリック」

- ア 行動や考え方が風変わりである

- ウ 日本人離れした雰囲気を漂わせて いる

イ 周囲の人をいらいらと不快にさせる

- ウ 専門的なことにこだわり妥協しない

II 「目利き」

- ア 個性を持つた人物を見つけるのが早い人

- ウ 個性の良し悪しの判別がよくできる人

- イ 個性を社会に役立てるため努力している人

- ウ 突出した個性への理解が特別深い人

問5

\_\_\_\_\_にあてはまる文を次のの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

\_\_\_\_\_ i \_\_\_\_\_ ii

ア それらの性質をすべて備えた人の数はどんどん減つていき、最終的にはただひとりの人を指すようになります  
イ それらの性質をすべて備えた人の数はどんどん増えていき、最終的には地球人口のすべてを指すようになります  
ウ それらの性質をすべて備えた人の数はどんどん減つていき、最終的には複数の候補に絞られることになります  
エ それらの性質をすべて備えた人の数はどんどん増えていき、最終的にはグループのすべてが要件に該当します

\_\_\_\_\_ ii

ア みんなのよさを認めている意味で同じ  
イ みんな同じであるという意味で同じ  
ウ みんなの考えに賛成しない意味で同じ  
エ みんなちがっているという意味で同じ

問6

筆者の述べる、「伝統的な哲学の考えに基づく個性」とは何か。本文中から七十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えるさい。

問7

——線部A 「個性重視のもうひとつワナかもしません。」とあるが、筆者の指摘する二つのワナとは何か。本文中の言葉を使って七十字以内で説明しなさい。

問8

——線部B 「このワナを避ける、あるいはそこから抜け出すためにはどうすればいいのか。」とあるが、その方法として最も適當なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日常的な交流の中では社会人として立派にふるまい、周囲の人の信頼を得たうえで、より一層仕事に打ち込むという普段の心がけに気を付ける。

イ 自らの個性を許してもらえる場所を確保するために、日常生活で礼儀正しくていねいに他人と接するなど、人間関係を強固にする努力を続ける。

ウ 職業上も日常生活においても、個性を發揮し得る場所を探すために周囲の人々に働きかけ人間関係の下地を作るなど、自分が努力をし続ける。

エ 個性とは運命であるとどうえ、職業的な表舞台で個性を發揮させてもらうために、日常的な交流の場で心配りを細やかにするなど、人間関係の基盤を築く。

問9

本文の内容について述べた以下の文のうち、不適當なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 筆者の立場によれば、人に対して「個性的な人間になれ」と促したり、「社会に有用な個性を見つける」などと奮起させる努力のさせかたはふさわしいものではない。

イ 社会の側が個性を重視する考え方を持ち、人の個性を生かそうと考えるならば、その過程で発生する経費やトラブルを個人に押し付けてはならない。

ウ 個性を重視することの真意は、ある人を適切な環境下におくということである。なぜなら個性は単独では機能せず、その人が置かれた状況の中において力を発揮するからである。

## エ オ

筆者は、個性とは運命であり呪いであるかもしれないと述べているが、「呪い」という言葉を用いた理由は、私たちの思考行動が必然の結果を招くことからくる恐怖が連想されたからである。

筆者は、人間のあり方は他者との関係のなかで決まるという実存思想を主張の内に取り入れ、突出した個性が出現するとき、社会においてその個性を受容する準備が必要だと説いている。

〔2〕次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

今は昔、右近の中将、在原業平といふ人ありけり。いみじき世の色好みにて、「世にある女のかたちうるはしと聞くをば、宮仕人Aをも、人の娘をも見残すなく、数をつくして見む」と思ひけるに、ある人の娘の、「かたちありさま世に知らずめでたし」と聞きけるを、心をつくしていみじくBけさうしけれども、「やむCことながらむ媚取りDをせむ」といひて、親どものめでたくかしづきければ、業平の中将、力なくしてありけるほどに、いかにしてかかまへけむ、かの女をひそかに盗み出してけり。

それに、たちまちにゐて隠すべき所のなかりければ、思ひあつかひて、北山科(注1)のほとりに古き山庄(注2)の荒れて人も住まぬがありけるに、その家の内に大きなるあぜ倉(注3)ありけり。片戸は倒れてなむありける、住みける屋は板敷の板もなくて、立ち寄るべきやうもなかりければ、この倉の内に畳一枚を具してこの女を具してゐて行きて臥(注4)せたりけるほどに、にはかに雷電霹靂(注5)してののしりければ、中将太刀を抜きて女をば後の方に押しやりて、起きゆてひらめかしけるほどに、雷(注6)もやうやく鳴りやみにければ、夜も明けぬ。

しかる間、女、声もせざりければ、中将怪しみて見返りて見るに、女の頭の限りと、着たりける衣(注7)どもとばかり残りたり。中将あさましくおそろしくて、着物をもとりあへず逃げて去りにけり。それより後(注8)なむ、この倉は人取りする倉とは知りける。しかれば雷電霹靂にはあらずして、倉に住みける鬼のしけるにやありけむ。

しかれば案内知らざらむ所にはゆめゆめ立ち寄るまじきなり。いはむや宿りせむことは思ひかくべからず、となむ語り伝へたるとや。

(注1) 北山科(きたやましな)：現在の京都市山科区北部地区

(注2) 山庄(さんじょう)：莊園管理のためなどに建てられた山中の屋敷

(注3) あぜ倉：丸太や角材を「井」の字状に組み上げて造つた高床の倉

(注4) 雷電霹靂：らいでんへきりき 急に鳴る激しい雷

問1 線部①と②を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- ① いふ ② かまへけむ

問2 線部A～Cの本文中における意味として最も適当なものを次のの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- |        |          |          |         |
|--------|----------|----------|---------|
| A いみじき | (ア) 普通の  | イ 立派な    | ウ たいそうな |
| B かたち  | (ア) 性格   | イ 容姿     | ウ 美形    |
| C かしづき | (ア) 甘やかす | イ 大切に育てる | ウ 持て余す  |

問3 線部③「なむ」は係り助詞である。結びの語を答えなさい。

- |        |     |
|--------|-----|
| エ 見事な  | エ 肌 |
| エ 反対する | ( ) |

問4 線部④は誰のしわざだったのか、本文中から漢字で抜き出しなさい。

問5 線部⑤を現代語訳しなさい。

問  
6

本文の内容について述べた以下の文のうち最も適当なものを次のAから一つ選び、記号で答えなさい。

A 業平は美男だったので、宮廷に仕える女性でも特別な家柄でない女性であつても、一人残らず自分のものにしたいという願望を持っていた。

B ある人の娘でうら若く美しい女性がいたが、その女性は化粧が上手であり、その美貌をもとに日ごろから高貴な家柄の男性を婿にしたいと考えていた。

C 業平と女があぜ倉に隠れていたとき、女が声を出さないため不思議に思った業平が振り返ると、女の頭と着ていた衣だけが残っていた。業平はひどく恐怖を感じ、着物を着ないまま外に飛び出した。

E 右近の中将という役職に就いていた業平は、意中の女性を盗み出し北山科の山庄に立ち寄ったが、激しく雷が鳴った夜、女性と口論になつたことが原因で怒り、刀を抜いておどかした。

O この事件から学ぶ教訓内容は、「案内の者さえも分からぬ場所に立ち寄ってはいけない。ましてや、そのような場所に宿泊しようなどと考えてはいけない。」というものである。